

## 資料2 若者の声

次にお示しする「若者の声」は、ヒアリングにおいて若者から聞いた声です。

若者が気楽に参加できるボランティア活動、若者が共感し「参加したい」「参加してよかった」と思うボランティア活動にするために、何ができるか？

そのヒントを得るため、若者の声に耳を傾けてみましょう。

(広報や募集の際にキーワードとなりそうな言葉に、下線を引いてみました。)

### 1 成長と学び

- ☺ ボランティアをすることで多くのことが学べ、自分の世界が広がったと感じます。
- ☺ さまざまな人と出会え、自分の価値観や考えが広がるのが嬉しいです。
- ☺ 学生は自分たちで何か考えて形にする機会があまりないので、そういった経験ができるのは、学生にとってはよいことだと思います。
- ☺ 活動の中で、参加者それぞれ役割が振られるので、その責任感とか役割を最後まで果たすっていう、達成感も味わえます。また、どう動くか自分で考えて動くので、かなりの行動力もついたと思います。その学びは、他の大学生に比べても結構あるんじゃないかと思います。社会に出た後も、プロジェクトとかで積極的に自主的に参加できるようになるかなと思います。
- ☺ 活動の中で、団体のリーダー的なポジションを任せられ、みんなを引っ張っていく経験ができました。また、ボランティアを募集したり、チラシを作成していろいろな施設に配って営業したり、という経験もできました。そうした経験が社会人になってからも活かしていると思います。
- ☺ 団体の広報を任せられ、活動を広めるために、いろいろな施設を訪問したり電話したりしています。そのやり方を考える時に、成長を感じます。
- ☺ やることが決まっている活動にただ参加するよりは、自分たちがやりたいことを、自分たちで考えて企画して、活動の進め方も考えて工夫して、それを自分たちで実行できる活動の方が、学びがあるし、終わった後の達成感とか、やりがいを感じられます。

- ⑤ 私の参加している活動は、参加者一人一人が企画を考えて活動しています。参加者間で積極的に意見を言い、自分の考えをわかりやすく相手に伝えるということがとても大切だと学びました。企画を進める際に、他の参加者の協力が不可欠で、参加者にわかりやすく活動目的を説明し、この企画でいいか納得をしてもらう必要があるということも学びました。
- ⑥ ボランティア参加者にも分担があるからこそ、やりがいは感じられると思います。任せると負担にもなるけれど、任せられた方が学びがあるし、自分が成長できたと感じます。
- ⑦ 東京に比べて群馬では大学も高校も学校の垣根を越えた交流やプロジェクトなかなかありません。また、学校外での学びの場も少なく、学校外での学びの格差、体験の格差を感じます。この格差を解消し、群馬の大学生や高校生が社会性や実践力を身につけることができるよう、学校の垣根を越えた活動、学校外での学びの場を提供したいと考えて、活動を始めました。高校生や大学生がやりたいことに挑戦し、交流できるよう、それをサポートできるように心がけて活動しています。
- ⑧ 自分が一番活動を通して成長できたなという思う点は、やっぱりコミュニケーション能力がすごく高まったことかなと思います。目上の人とも関わることが多かったので、敬語の使い方とか、電話の仕方とか、メールの書き方とか、そういうビジネスマナーに通ずるところも学べたのかなと思います。
- ⑨ 自分は学生で、目上の方、年上の方と話すのが苦手でしたが、活動を通していろいろな方と係わり、多くの方と話したりメールのやりとりをしたりする機会があり、社会のマナーやルールを学ぶことができました。
- ⑩ 貧困家庭の中学生に勉強を教える活動をしています。1対1で教えているので、一人一人に合った教え方を考えて教えています。そのために、勉強の合間の雑談で子どもの話をよく聴いて、仲良くなり、話題を引き出し、その子は何に興味があるのか、何が好きなのかを知って、教え方の工夫に活かしています。一人一人に分かりやすく説明すること、相手の話をよく聴いて話題を引き出すことを学びました。
- ⑪ 自分が初めに参加したときに親切丁寧に接してくれた先輩のように自分もなりたいて考えて、先輩のやり方を吸収して何回も試行錯誤して取り組んだことが、今の自分の学びや行動につながっています。

- ☺ 将来学校の先生になろうと考えていて、いろいろな子どもと関わる機会を作りたいと思って参加しています。
- ☺ 目指している職種が災害ボランティアで活躍しているのを知って、自分も将来その職種に就いたら役に立ちたいと思って、学生のうちから災害ボランティアに参加しようと思い参加しています。
- ☺ 子どもやその保護者に関わる仕事をしているので、この活動を通して、子供の成長を見られること、子どもの保護者の方ともお話ができることが、自分の仕事にも生きています。
- ☺ 将来子どもに関わる仕事に就くため大学で学んでいます。大学で学んでいても現場での様子とかは見ないとわからないことが多いです。学校で学んだことをこの活動の中で活かして、子どもの様子を見て、実際に子どもに声かけをやることで、すごく学びになっています。大学で学んだことを現場で活かしたり、自分なりに理解したりすることで、将来仕事の現場に出たときに、即戦力になるかなと思っています。
- ☺ 学校とアルバイトに加えて第3のコミュニティーっていうのに入るのも、将来にとってすごく役立つものは多くあると思います。
- ☺ ボランティアにあまりいいイメージを持ってなくて、参加しにくいって思っていました。でも、ボランティアやることで、いろいろ変わることもできましたし、いろいろ成長することもできました。ボランティアに参加して、自分をさらにより良くしてもらいたいと思います。
- ☺ 大学で学んでインプットしたことを活動を通してアウトプットできれば、自分の学びとして、確実に習得できると思います。
- ☺ 大学で教員になるための勉強をしていた時に、子どもと関わるボランティアに参加し、子どもとの関わりや保護者との関わりを経験できたことが強みとなり、教員となった今も活きている。経験がないと分からないことが多い。
- ☺ ボランティアでは、普段はなかなか入れない経験できないことも体験できます。
- ☺ 実習以外でボランティアで経験を積めるっていうのはすごい学びだなあとと思います。実習に行く前に、ボランティアで1回でも経験しておくと心持ちがちょっと変わる。ボランティアで日常的にやっていることで、安心感があるかなあとと思います。

- ⑤ ボランティアでいろんな活動に参加させてもらい、普通に大学生活していたら体験できなかった体験をしています。教育関係に進みたいけれど、人と関わる機会はあまりなくて、接し方はわからないと思っていたけど、学習支援室で中学生と、スマホ講座でお年寄りの方たちと、幅広い世代の方と交流を持てる。普通に過ごしてるだけじゃ、こういう経験できないなって思います。
- ⑥ 学習支援のボランティアをしています。自分の教え方を先輩のボランティアに見学してもらい、アドバイスをもらって改善しています。それぞれのボランティアに任せっきりというのではなく、客観的に見てもらってアドバイスをもらえるのがありがたいです。
- ⑦ 私がボランティア活動を通して学んだことは二つあります。一つ目は、自分の興味のある活動とか分野に参加することによって、大学の授業と関連付けて、活動ができたりとか、授業で学んだことをボランティアに行かせたり、ボランティアで学んだことを授業に生かせたり、授業だけでなく、ボランティア活動を通してより学びが深まるなど思いました。二つ目は、様々な人と関わることによって、自分の考えの幅が広がったりだとか、新たな発見があることだなど思いました。
- ⑧ 座学だけではわからないことが多いので、対象者と実際に関わることには学びがあります。ここでの活動は将来の役に立つと思っています。学生のうちにたくさん経験はしておきたいです。
- ⑨ 全部運営側がサポートするんじゃなくて、参加者が一度自分でやってみて、そこにアドバイスする形で関わるということを大事にしているのがこの活動だと思う。どの参加者も自分が主体となって、働ける環境にあるのがボランティア活動のいいところ。私もそれを支えるような形でやってみたいなと思います。
- ⑩ 活動を始めるときはめちゃめちゃ不安でした。始めはもちろん上手いかないこともすごくたくさんあったけど、続けていく中で一緒に頑張れる仲間に出会えたし、やってよかったなってすごく思っています。初めは不安な部分もあってなかなか踏み出せないこともあるかもしれないけど、やって無駄になることは本当に一つもないと思っているので、ぜひ何かやってみたいなと思って迷っていることがある人は、ぜひやってみて欲しいなと思います。

## 2 楽しい、やりがいがある

- ⑪ 自分の学びや経験もそうだけど、それが誰かのためになったことが、一番やっていてよかったと思うことです。

- ⑤ たくさんの人に活動を知ってもらうため積極的に広報活動をしています。活動を知った人に「素敵な活動ですね」と共感してもらえること、「一緒にやりたいです」と声をかけてもらって一緒に活動する機会が増えることが嬉しいです。
- ⑥ 活動先で、対象の方の笑顔に出会えること、とても喜んでもらえることが嬉しいです。
- ⑦ 運営スタッフがアットホームな雰囲気、学生だけじゃなくて社会人の方も在籍しているので、就職活動とか、将来のことのアドバイスとかをもらえたりするので、すごくおすすめです。
- ⑧ 社会人になって環境が変わり、仕事に慣れるまでの期間が必要だと思ったので、しばらく離れていたんですけども、数年経ち、仕事にも慣れてきて、やっぱりこの活動がとてもすごい好きで、また、スタッフとしてかかわらせてもらうことになりました。
- ⑨ この団体には、すごい誰かを思いやる気持ち、やさしい気持ちを持った人たちがたくさんいるので、楽しく活動することができます。
- ⑩ 私は子供たちがすごい好きで、子供たちに夢と希望を届けたいと思ってこの活動に参加しています。いろんな子供たちに会って、夢と希望を届けることができるととても楽しいです。
- ⑪ 自分のやりたいことをやれるのが一番楽しいです。自分に任された仕事をレベルアップしていきたいって思って、それをやっているの、自分のやりたいことや自分の長所とかを伸ばしていくことができるっていうのがいいです。
- ⑫ 仕事とは別の活動をするので、自分自身のリフレッシュになっています。ちょっと仕事で大変だなあ、辛いなあなんて思っていた時にも、ここで、子供たちの笑顔を見ることで、またリフレッシュして頑張ろうという気持ちで、頑張れるなと思っています。
- ⑬ 仕事で疲れて、ボランティアというより遊びに来ている感覚。ここで子どもたちと触れあうことで少しでも学びがあれば、ただ楽しい。
- ⑭ 大学で学んだことを現場で実践できるのが楽しいです。
- ⑮ 貧困家庭の中学生に勉強を教える活動をしています。自分で考えて工夫した方法で教えて、その子が問題が解けるようになってくれると達成感があり嬉しくて

す。また、塾のような勉強だけでなく、中学生と雑談もしながらアットホームな感じで活動できるのも楽しいです。

- ☺ 活動を主催する団体のスタッフが活動の内容を全て決めてしまって、ボランティア参加者は単にスタッフを補佐するだけの役割しか与えられないと、単なる労働力として扱われていると感じ、やりがいを感じられません。
- ☺ 任される部分があるとやりがいを感じられて嬉しいけれど、負担にもなるので、困ったときには大きな失敗にならないよう、活動を主催する団体のスタッフがサポートしてくれると、安心して取り組みます。
- ☺ 喜ぶ顔が見れたりとか、助かったよとか言ってもらえると、次もやってみようと思える。
- ☺ スマホ講座とかでお年寄りに教えてるときに、すごく感謝されることが多い。この人の助けになってる、この人の力になれたんだなっていうのがわかると、やっぱり嬉しい。

### 3 人と交流できる

- ☺ 活動を通して人とつながる機会が増え、たくさんの人と交流できるのが楽しいです。
- ☺ 一つの活動に参加したら、一緒に活動した人が他の活動にも参加していて、その人に誘われて他の活動にも参加しました。その活動でも別の活動に誘われて参加する、といった感じでいろいろな活動に出会えて、たくさんの人とつながることができました。
- ☺ 私の参加している活動は、普段は複数の会場に分かれて活動していて、各会場の交流はありません。けれども、年に何回か、各会場の人達が一堂に会す機会があります。そのときは、各会場で活動している人を混ぜたグループをつくって、情報交換や意見交換をしたりします。勉強にもなるし、他の会場の人と交流する機会がってよいと思います。
- ☺ 活動には学生から社会人まで幅広い年代の人が活躍していて、いろいろな大学の学生、いろいろな職業の方がいて、多様な人と話す機会があり、刺激になります。また、参加者だけでなく、活動をする際に様々な人や団体にお世話になって

いて、活動の中でも様々な人と係わることが出来ます。多くの人と係わることができて、参加してよかったと感じています。

- ☺ 参加者だけでなく、他の団体とも連携して活動することがあり、さまざまな人と協力して活動できるのが嬉しいです。
- ☺ 活動を通して、地域に出て、地域の様々な活動に参加し、地域の方と係わることができたのが良かったです。
- ☺ 働き始めてからは関わる人が職場内に限るといふか、関わる人が少なくなっていたなと思った中で、学生から社会人まで幅広く参加しているこの活動にもう一度参加したいと思ってまた参加しました。
- ☺ ボランティアを通してたくさんの人と出会えたことがすごく楽しかったです。たくさん出会って、たくさん話す中で、いろんな考え方に触れるのがすごく楽しかったし、話ができるのがすごく嬉しいなと思っています。

#### 4 気軽に参加できる

- ☺ 初めて説明会に参加したときに、やっぱり怖さがあったけど、ボランティアのスタッフの方や学生さんが「こんにちは 名前なんて言うの?」とか「なにやっているの、どこ出身なの?」と興味を持って話しかけてくれたので、自分も話したくなってきました。話しかけてもらえると、受け入れてもらえた、ここにいていいんだと思えます。「いらっしゃい」という雰囲気、受け入れる場をみんなでつくっていくことが大事だなと、すごく思いました。
- ☺ 知り合いから誘われると、やってみようかなという気持ちになります。一度やってみると、別に社会貢献に対する意識が高い人だけがやっているわけじゃないことが分かります。ボランティアの魅力に気がついて、またやってみようという気持ちになります。
- ☺ ボランティアで参加している人が困っていると、団体のスタッフの方がアドバイスをしてくれたりして助けてくださるので、心強いです。安心して活動することができます。
- ☺ ボランティア活動には興味がありましたが、何となく怖く感じ、自分にはできないなと思っていました。ボランティアって何をしているのかよく分からないというのもありましたが、軽い気持ちでやっていたのか分からなかったのも理由で

す。ボランティア活動をしている人との出会いがなく、未知の世界だったのも参加しなかった理由だと思います。

- ⑤ 大学で、ボランティア活動をしている人と出会う機会がありました。そこで実際に活動の様子を見たり、どんな活動をしているか直接話を聞いたりして、自分にもできるかもしれない、やってみたいという気持ちになり、参加を決めました。大学の先輩が参加していたのでより親近感がわいたのも決め手の一つです。実際に活動している人に会えるのは、参加のきっかけになると思います。
- ⑥ 群馬は車社会だけど、車を持っていない学生もいます。活動場所まで公共交通機関でいくのが大変だと感じたことがあります。興味はあるけど交通手段がないので参加を諦めたこともあります。車を持っている友達と参加するときには送ってもらうこともできるけど、一人ではいけない。参加したいなら自力できてね、と言われると、そこまでして行きたくはないなと思います。
- ⑦ 同じ大学生でも、学部や学科によって、時間に余裕のある時期が違います。資格取得のための現場実習のある学科だと、長期休暇中が現場実習に充てられていて忙しく、ボランティアをしている時間はとれないです。
- ⑧ 大学に入ってボランティアやってみたいなと考えていたタイミング、5月くらいに、大学内でボランティアに興味のある学生とボランティアサークルが交流するイベントがありました。そのイベントで興味のある活動に参加している先輩の話を聞くことができたのでスムーズに参加を決めることができました。自分で活動を探すのは大変なので、大学でボランティアと出会うイベントを開催してくれて、いろいろな活動を見て話を聞いて決めることができたので、参加しやすかったです。
- ⑨ 大学に入って大学の勉強以外に何か始めようと思ったときに、アルバイトの他にボランティアという選択肢も思い浮かべるようになれば、気軽に参加できると思います。
- ⑩ 在籍している大学の先生が代表をしている活動で、毎年4月から5月にかけて大学構内に活動を紹介するブースを設けて、学生に参加の声かけをしています。大学構内で主催者側から声をかけてもらったので、興味を持って参加してみようかなと思いました。



- ⑤ この人がいるからここに来たい、もっとこの人と係わりたい、つながりたいと思える場づくり、自分が不安に感じたり心配していること、悩んでいる点とかを気軽に話せる場づくりが大切だと思います。
- ⑤ ボランティアって、単発でできるから、嫌だったらやめればいいし、1回やって1日だけやればいいとか、何時間やればもう終わりみたいな感じなので、いい意味でも悪い意味でも、区切りがつきやすいところが一つの魅力ではあるかなと思います。
- ⑤ 私は主に、授業が、終わった放課後の時間とか、あとは授業と授業の間の空きコマの時間にボランティア活動をしています。ボランティアは短い時間とか隙間時間でもできるのが魅力です。
- ⑤ ボランティアには本当にいろんな種類があって、いろんな活動があるからこそ、気軽に自分がやりたいのをできるところがボランティアの魅力だと思います。単発でできるから、1回参加してみたら嫌だったらやめて、違うボランティアを探せばいいし、自分に合ってるなって思えば、それに似た活動とか、あとはその活動をずっと続けるとかでもいい。その気軽さ参加しやすさがあるのがすごく魅力だと思います。
- ⑤ 初めて参加したときは緊張してたけれど、明るい感じで、話し掛けてもらって、受け入れてもらうのが早かったように感じます。話しやすいと思いました。
- ⑤ 月に1回スタッフの中で研修会をしています。その時に悩みをお互いに共有して、消化し合い次の活動の時に生かせるように重点的にやっています。
- ⑤ 参加者が主体になって働ける環境なので、自分が何かやってみたいと思ったら、それを応援してくれる人もいるし支えてくれる人もいるっていうのはこの活動のいいところ。自分のやりたいことを言ってみて、それを支えてくれるスタッフ同士で意見を共有しながらやってみることで自分自身の学びにもなるし、他者に影響を与えられる存在にもなれます。

## 5 自分に合っている

- ⑤ 大学内でボランティアに興味のある学生とボランティアサークルが交流するイベントがあり、そこに参加して興味のある活動を見つけました。イベントの中で、その活動に参加している先輩に、活動の写真とかを見せてもらいながら丁寧に教えてもらえたので、活動のイメージがわきやすく、活動の雰囲気も分かったので、参加を決めることができました。

- ③ 自分の将来に役立つ活動だったら、多分大学生も、興味を持って参加したいと思います。この活動に参加すれば、自分が社会人になった時にどんな力が身につくのかは、活動の名前とかだけではわからない部分があるから、それを可視化してもらえればと思います。
- ③ 活動に参加している人にどのような学びがあったか、どんな力が身につくか、参加してどんなよかったことがあるか、参加した人自身の声を聞くと、一番リアルにわかると思います。活動を主催する団体の方から参加者に丁寧に話を聞いて、それを意識して発信していくとよいと思います。活動を主催する団体のスタッフさんが、自分たちはこんないいことをやっています、というよりは、実際に参加している若い人たちの声を拾って発信するっていう方法が有効だと思います。
- ③ 大学の学生が集まる場所、たまり場にしている場所にポスターが貼ってあると目にとまります。ポスターを目にして興味をわいた時に、詳しい情報につながるQRコードがポスターあれば、その場ですぐスマホをかざして確認できるので、参加に結びつく可能性が高くなると思います。ポスターだけだと、情報が少ないので、参加に結びつく可能性は低いのではないかと思います。